

2010年2月12日

Deep Understanding In Communication: Visions For the Future

Chapter 7 Perspectives from Japan

Multiple Intelligences Around the World

日本 MI 研究会 会長 上條雅雄

2009年に出版されたハワード・ガードナー教授共編に紹介された名古屋大学大学院メディアプロフェッショナル・コースの講義「コミュニケーションにおける理解」の概要をここに紹介する。Harvard Graduate School of Education Project Zeroが開発したフレームワーク（理論的枠組み）の幾つかを組み合わせ、メディアの世界に応用したものである。“*Multiple Intelligences Around the World*”では紙面の関係で掲載できなかった点についてもこの小論文（19 Mar 2007, メディアと文化. v.3, 2007, p.89-101）ではもう少し深く触れている。詳細は下記の web site を参照されたい。その導入部のみをここに記すことにする（MK100211）。

• • ☆ • •

「コミュニケーションにおける理解」 上條雅雄

- I Multiple Intelligences Theory とは
 - (1) インテリジェンスとは、個性とは
 - (2) Entry Point (エントリー・ポイント)
- II 「理解のフレームワーク」とブロードバンドの本質
 - (1) 深い理解とは
 - (2) 理解の要素とそのフレームワーク
 - (3) ブロードバンドの本質と理解の促進
- III Dimensions of Understanding (理解の4軸)
 - (1) 理解の質を考える軸
 - (2) 「理解の4軸」とその特徴
 - (3) 理解の発展
- IV Flow Theory
 - (1) 乗りの理論 (いかに引き込むか)
- V Ethics
 - (1) メディア分野に要求される「倫理」とは

はじめに

今日ほど、「国境、文化、宗教を超えた理解が望まれる」と各自が認識することは近年なかったのではないかと思う。と書きながら、1964年、東京オリンピックの時に学生の立場で、海外来訪者にインタビュー形式のアンケートをとりながら、将来もっと色々な国の文化、生活に触れてみたいと強く感じたことを思い出す。企業でオーディオ、ビデオ機器の商品開発、国内外のマーケティングに長年携わり、「音や映像に感動する喜び」をどうユーザーに伝えるかについて、真剣に考える時代が続いた。その後、社内プロダクツ・ライフスタイル研究所に勤務した時に「メディアがメッセージを運ぶ仕組みなら、ソニーはメディアである」という言葉に出会った。そこで、もっと人間の本质または、知識の理解のメカニズムを知り、それを応用することでより幸せな社会を築くことへの貢献出来る道を探ろうと思った。そこから、この小さな旅は始まった。1999年の晩秋、Multiple Intelligences Theory (マルチプル・インテリジェンス理論) の提唱者として知られる、認知心理学者ハワード・ガードナー教授の居るボストン郊外のハーバード大学教育大学院を訪れ、Project Zero にて、一日の個人授業を受けた。偶然にも滞在中に教授に会えた日の夕刻には市内でダニエル・ゴールマン氏(「EQ 心の知能指数」の著者)の講演会の聴講予約がしてあり、会場で講演の前後にご本人とお話をする機会を得た。⇒この続きは下記の名古屋大学学術機関リポジトリ・大学院国際言語文化研究科のサイトをご参照下さい。

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/tagen/media/journal/200703/M&CVol3-Kamijo.pdf>